

項目	主な意見
<p>●「環境」、「観光・交流」の課題に関する主な意見</p>	<p>【環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CNP形成に向けた動きとして、<b>物流の2024年問題に関連した脱炭素化の取組</b>を加えるべき。</li> <li>・水素・アンモニア等の次世代エネルギーの受入貯蔵施設を整備するに当たっては、供給先である需要家がどこにいるか、何をどのように使っていくのか<b>需要に関する把握・検討が大事である。</b></li> </ul> <p>【観光・交流について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興や人流増加への取組は、港湾の背後地だけではなく、行政や民間の観光業、観光地域づくり法人（DMO）などの<b>幅広い関係機関との連携が必要</b>である。</li> <li>・<b>野蒜築港や蒲生、貞山運河などの歴史</b>についても、観光・交流促進のメニューに加えるべき。</li> </ul>
<p>●仙台塩釜港の課題のまとめに関する主な意見</p>	<p>【物流について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>港湾労働者が将来にわたって減少し、労働者不足が深刻化する</b>中で、DX化や自動化、港湾施設の強化などによる業務の効率化を図ることは非常に大きな課題であり、<b>より具体的な検討を行うことによる生産性向上が求められる。</b></li> <li>・2024年問題に関連した農産品輸出の取組として、仙台塩釜港経由での農産品輸出の試みが高い評価を得ていることから、今後も<b>仙台塩釜港の拠点性を活かした関係者間の連携した取組が必要である。</b></li> </ul> <p>【防災・施設維持について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の港湾運用の視点で、<b>生産活動用の通常貨物と緊急物資の取り扱い</b>をどうするか、ふ頭利用や優先順位などは、既存利用者との事前調整が必要である。</li> <li>・東北広域港湾BCPの中で他県企業分をどのように連携して扱うことにしているか、<b>通常貨物の代替対応を改めてチェックする必要がある。</b></li> </ul>
<p>●仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性（素案）に関する主な意見</p>	<p>【将来想定される社会変化と港背後の交通インフラ環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙台塩釜港を取り巻く交通インフラ環境には、物流に関連するインフラとして<b>鉄道や空港の情報も追加すべき。</b></li> </ul> <p>【仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性（素案）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「観光・交流」の方向性で示す<b>「目的地化」に向けた取組</b>は、戦略性をもって進めてほしい。東北の観光は祭りや紅葉でイベント化している中で、<b>東北・宮城の“暮らし”や“人”を見せていく工夫</b>や、石巻の世界有数の水産加工技術など、<b>日本の精神性や伝統を伝える仕組み</b>を、イベントとの端境期に組み込んでいくことが必要。</li> <li>・「観光・交流」の方向性に関して、野蒜築港や貞山運河、東名運河といった歴史発掘・伝承などの<b>インフラツーリズムの視点</b>を加えることが必要である。</li> </ul>